

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

経済学部経済学科通信教育課程は通信教育課程の特殊性もあると思われるが、通学課程と比較して、全体的に自己点検・評価活動は十分ではなく、当該活動に関する記述も不十分である。また、教育方法の評価や成果の評価に関しては、通学課程と異なり、個々の教員に委ねた形のものもいくつか見られ、学部長を中心とした執行部主導の体制の整備が必要である。さらに、2015年度に指摘された経営学部(商業学科担当)との連携・調整等については、通信教育部の経済学部全体としての教育の最終的な責任の所在を明確にし、経済学科と商業学科を含めた経済学部全体としての自己点検・評価システムの確立が求められる。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

指摘を受けた通学課程と比較して、自己点検・評価活動、当活動に関する記述も不十分とされる点については、2017年度より経済学部教員が通信教育部長となることもあり、学部長を中心とした執行部主導の体制の整備もより押し進めていくことができると考える。

従来からも、各種履修・成績状況や学生アンケート等のデータ蓄積は順調に進んでおり、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。一方でデータの検証については、引き続き有意な検証方法等について、検討を進めたい。通信教育課程の経済学部内調整（経営学部との連携）は、各学科の通信教育課程主任・学務委員を通じて、引き続き行っていく。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部経済学科通信教育課程の履修や成績状況、学生アンケート等のデータは通信教育学務委員会によって学部教授会に報告はされているものの、データの検証や評価という点では不十分である。2017年度から経済学部教員が通信教育部長となることから、執行部主導の体制整備については期待できる。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。 はい いいえ

【2016年度の質保証に関する活動概要】 ※箇条書きで記入。

- ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項である
- ・必要に応じて、各学部教授会の審議・報告事項としている
- ・通信教育学務委員会の委員の内、1名はFDアドバイザー・ボードの構成員である
- ・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員である
- ・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と、学務委員で実施
- ・通信教育課程主任/学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制
- ・経済学部質保証委員会（座長1名、委員3名、3回開催）において学部の自己点検とともに点検・評価

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程の質保証に関しては学部質保証委員会において学部の自己点検とともに点検・評価が行われている。シラバスの第三者確認は通信教育課程主任と学務委員で実施されており、学事事項についても通信教育学務委員会での審議体制が確立しており、適切である。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|--|---|
| 2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。 | |
| <p>【学位授与方針】</p> <p>「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持つことを前提とし、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端に行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得することを学位授与方針とする。経済学及び経営学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の単位を取得した上で124単位を修得した者に対し、学位を授与している。</p> | |
| ①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| 2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 | |
| <p>【教育課程の編成・実施方針】</p> <p>本学部の教育課程は、通学課程と同様であることを原則としている。ただし、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成する。</p> <p>さらに、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を提供する。</p> | |
| ①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| ②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| <p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu | |
| ③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| <p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>各種データの収集や学生アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続して行っている。通信教育学務委員会において、経年(カリキュラム変更前後)における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータも提示されている。シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし | |
| 2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 | |
| ①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| <p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに答えている。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増や</p> | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

す努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として67科目（2016年度）を開講している。これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・2017年度スクーリング開講一覧

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

（～600字程度まで）※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2013年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とすると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、幅広い経済学の知識の習得、教育を実現した学科の1つとなっている。

2016年度がこのカリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後4年目の完成年度であったことから、通信教育部改革内容が適切であって効果的に機能してきたか、改善が必要な場合どのような点が挙げられるのか等について、今後検討を進めていきたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・経済学科カリキュラム

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web 学習相談制度
- ・ステップ型の学習ガイダンス（1ステップ：職員による制度説明・2ステップ：卒業生による経験談他・3ステップ：教員による学習指導他）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。

通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。また、スクーリング時においてもオフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」（冬期スクーリングにて開催）には、約90名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習サポート_学習のしおり2017より抜粋

③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。

年間履修単位数上限を49単位までと定めている。スクーリングの年間登録単位数を、教職・資格科目も含め49単位までと定めている。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

本科生は教職・資格科目を49単位とは別に、原則合計60単位まで履修できる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・単位制度_学習のしおり2017より抜粋
- ・科目等履修生（選科生・教職生）受講条件_2017年度入学案内より抜粋

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|---|--|
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし | |
| ⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし | |
| 2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> B |
| 【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・通信学習_設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・シラバス「成績評価基準」 ・スクーリング_シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・Web シラバス記載のシラバス | |
| ②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。 | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| （～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 編入学生の単位認定は、2年次・3年次および本学通学課程からの4年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大10単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・放送大学単位認定_学習のしおり 2017より抜粋 | |
| 2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 | |
| ①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※簡条書きで記入。 ・進級判定は、卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は、学務委員会を通じて教授会に報告 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし | |
| ②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> B |
| （～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは、中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。 | |
| 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

経済学部経済学科通信教育課程の学位授与方針については通学課程と同様なレベルでは示されていないが、通学課程と同一水準の能力を修得することとしており、教育課程の編成や実施方針では多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に対して配慮がなされている。これらのことはホームページ上で公開されており、適切性の検証においても通信教育学務委員会が学習効果や満足度等の把握を行っている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.3)

経済学部経済学科通信教育課程では、学生の能力育成のために通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施されている。特に夏期スクーリングでは、社会人が受講しやすいように18:30～の時間帯に開講しており評価できる。また、メディアスクーリングの開講科目の増加に努力しており、様々なニーズを持つ学生に対して大きなメリットとなっている点で優れている。カリキュラムの順次性・体系性の確保については2013年度からの大幅なカリキュラム改革が2016年度で4年目の完成年度をむかえたことで、改革の是非が問われている。学生の能力育成の観点からカリキュラム改革の効果について、早急な検証が望まれる。

③教育方法に関すること (2.4)

経済学部経済学科通信教育課程の学生の履修指導について、web 学習相談制度やステップ型の学習ガイダンスが行われていることは通信教育の性質上有効である。学習指導についても「学習質疑」制度や「オフィスアワー」「通教生のつどい」が実施されており、学習意欲の向上につながっていると評価できる。履修登録単位数も上限が設定されており、適切に行われている。シラバスが適切に作成されているかのチェックは通信教育課程主任と学務委員によって行われている。授業の検証に関しては相互授業参観をすることは困難であるため、授業改善アンケートの質問事項のみでの確認となっているが、その他の検証方法に関しても検討が望まれる。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.6)

経済学部経済学科通信教育課程の成績評価と単位認定についてはシラバスに記載されているものの、適切性の確認方法については検討が望まれる。他大学等における既修得単位の認定については適切な基準を設けて対応している。成績分布や進級などの状況は学務委員会を通じて教授会に報告されているものの、データの検証については有意な検証方法が確立されていないため改善が望まれる。学生の学習成果の把握・評価については通信科目もスクーリングにおいても単位修得試験によって測定されている。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

本学部は、「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放する。学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学べる環境を整備する。

高等教育機関であることを前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲をもった人材を受け入れる。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集にも力を入れ、引き続き改善に向けた検討をしたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学通信教育設置基準

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバックしている。志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証している(通読判定と呼んでいる)。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。

【この基準の大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程の学生の受け入れ方針については設定されているものの、通学課程と同様なアドミッションポリシーは示されておらず、検討が望まれる。定員の未充足への対応については通信教育課程全体の大きな課題であり、他大学の事例等の情報収集を行っているが、具体的な改善案が示されておらず、引き続き検討が望まれる。学生募集および入学者選抜結果については「通信教育学務委員会」で報告されており、通信教育課程主任と学務委員が現状の課題を教授会にフィードバックしており、適切に行われている。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・経済学部執行部(学部長1名、教授会主任1名、教授会副主任1名、通信教育課程主任1名)
- ・教授会(原則として月1回)
- ・通信教育学務委員会/教養教育部会(原則として月1回)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・通信教育部学則に関する規程
- ・通信教育関係学部長会議規程

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | | | | |
|---|--------|-----|----|----|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育学務委員会規程 ・通信教育教養教育部会細則 | | | | | |
| 4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。 | | | | | |
| ①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 | はい いいえ | | | | |
| <p>(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。 大学通信教育設置基準の附則 3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていること、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | | | | | |
| 2016 年度専任教員数一覧 (2016 年 5 月 1 日現在) | | | | | |
| 学部・学科 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 合計 |
| 経済 | 17 | 1 | 0 | 1 | 19 |
| ※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。 | | | | | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| <p>経済学部経済学科通信教育課程の役割分担、責任の所在については通学課程と同じ経済学部執行部や教授会が責任を担っており、通信教育課程としては通信教育学務委員会が役割を担っている。教員組織に関しては、大学通信教育設置基準の附則 3 によって、「当分の間、従前の例によることができる」を拠りどころとしているが、通信教育課程専属の専任教員の配置はいずれ必要となると思われるので、速やかな検討が望まれる。</p> |
|---|

5 学生支援

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| | |
|---|--------|
| 5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。 | |
| ①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | はい いいえ |
| <p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし | |

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|-------|---------|
| 内容 | 点検・評価項目 |
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

| |
|-------|
| ・特になし |
|-------|

【この基準の大学評価】

| |
|---|
| 経済学部経済学科通信教育課程の卒業・進級判定や休・退学は教授会の審議事項であり、適切に把握されている。 |
|---|

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

| 評価基準 | | 教育課程・教育内容 |
|--------------|----------------|--|
| 現状の課題・今後の対応等 | | カリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後4年目を迎える。いわば完成年度であることから、通信教育部改革内容が適切であったか、改善が必要な場合などのような点が挙げられるのか等、引き続き検討を進めたい。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・本自己点検・自己評価項目4「成果」に記載のとおり、引き続き各種データを収集・蓄積している。本年度で完成年度を迎えることから、次年度の総括に期待願いたい。 ・在学年数の長い学生に対し卒業計画書を作成させ、2016年度については6人の指導を行った。 |
| 評価基準 | | 教育方法 |
| 現状の課題・今後の対応等 | | <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度に向けて通学課程では学年暦の見直しが検討されている。その検討をはじめ、通学課程に併せた教育方法の検討をしていく。 ・これまで通信教育部生においては、総合情報センターの判断により各学生に統合認証IDが付与されていない状況であり、それに伴い授業支援システム等を利用できない状況である。2017年度に向けて、統合認証IDの付与を検討するよう総合情報センターと交渉しており、実現すれば教育効果の大幅な向上が期待できる。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・通学課程での学年暦の見直しが2018年度からとなったことを踏まえ、通信教育課程も2018年度から100分授業に見直しを行うことを決定した。引き続き、通学課程に併せた教育を目指したい。 ・現在、通信教育部生には統合認証IDが付与されていないが、2017年度からの統合認証ID付与について総合情報センターと交渉を続けてきた。結果として、総合情報センターより「これまで通り(付与なし)」という回答があった。通信教育部はメディアスクーリングの拡充を進めている中、本決定は非常に残念である。次年度に向けては、通信教育部生の統合認証IDの付与に向けて次なる模索をする、もしくは通信教育部独自で少なくともe-mailアドレスの付与(.ac.jp)ができるよう検討したい。 |
| 評価基準 | | 成果 |
| 現状の課題・今後の対応等 | | 引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定通り、成績分布等のデータ蓄積を行っている。 ・年度におけるデータは、通信教育課程主任・学務委員を通じて、教授会にフィードバックしている。 ・通信教育部のMV目標として、2018年度に70科目のメディアスクーリングの開講を挙げたが、他学科との協力・連携も功を奏し、2017年度に72科目開講予定と、1年前倒して目標を達成した。通信教育部メディアスクーリングは、HOSEI2030「教育のオープン化」において先行事例として深く関係していくことが期待されているため、引き続き拡充をしていきたい。 |
| 評価基準 | | 学生の受け入れ |
| 現状の課題・今後の対応等 | | 通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | |
|-----------|--------------------|---|
| 年度末 報告 | 教授会執行部に よる点検・評価 | 当初の予定通り、学務部教学企画課を密に連携をとり、文部科学省への対応をしている。次年度も継続して対応していきたい。 |
|-----------|--------------------|---|

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

経済学部経済学科通信教育課程の成績分布等のデータについては、データの蓄積のみではなく、評価・検証を行い、今後の改善に役立てていただきたい。

【大学評価総評】

経済学部経済学科通信教育課程の自己点検・評価は通信教育学務委員会と学部教授会の審議が中心であり、質保証に関する活動は学部質保証委員会において学部の自己点検とともに進めているのが現状である。

通信教育課程という特殊な環境であるため、相互授業参観等の通学課程で可能である相互チェックが困難であるため、通信教育課程に特化した独自のアンケートを実施するなどの措置が必要であり、今後の取り組みに期待したい。

2017年度の通信教育内部質保証に関しては、経済学部教員が通信教育部長となることから、学部長を中心とした執行部主導の体制整備が期待できる。また、通信教育課程全体としての自己点検・評価システムの確立や最終的な責任所在の明確化にも進展があることを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。